

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：11101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21653062

研究課題名（和文） 教師の適切な児童生徒理解を促すコンサルテーションの開発

研究課題名（英文） Consultation that facilitates teachers' effective cognition of pupils' personality

研究代表者

田名場 忍 (TANABA SHINOBU)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号：80292259

研究成果の概要（和文）：本研究では、児童生徒についての教師の推測理解パターンを忠実に描き出し、その個人差を明確にする基準も備えた心理検査を開発した。また、適切な検査実施および迅速な検査結果フィードバックのためのオンライン化プログラムを開発した。さらに、適切な児童生徒理解を教師に促すことを目的に、検査結果にもとづくコンサルテーション・プログラムを提案し、事例検討を行った。

研究成果の概要（英文）：The results of this study are as follows. 1) Patterns of teachers' cognition of pupils' personality were clarified and a psychological test with the criteria that clarifies individual differences was developed. 2) An On-line program aiming at inspection and quick feedback was developed. 3) A Consultation program that facilitates teachers' effective cognition of pupils' personality and case examination was performed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	0	500,000
2010年度	1,000,000	0	1,000,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	270,000	2,670,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：児童生徒理解，教師，コンサルテーション，暗黙の人格観

1. 研究開始当初の背景

これまで、教師の児童生徒理解をとらえる心理検査として、教師用 RCRT (近藤, 1995) をあげることができる。この教師用 RCRT は、Kelly, G.A. の rep test を応用したもので、教師の児童生徒理解を詳細にとらえられるものの、査定に要する時間が長く、教師の推測パターンの個人差識別基準を備えていなかった。一方、我々の研究グループが開発し

た暗黙の人格観検査（細江ら, 2005）は、個人差識別基準を備え、短時間の査定が可能であるが、教育場面への適用を想定したものはなかった。本研究は、暗黙の人格観検査を基礎として、両研究の長所を生かし、短所を改善する方向で、教育場面に適した新たな査定方法の開発とその活用を目指すものであった。

研究代表者は、スクールカウンセラーなど

で、教師をはじめとする学校関係者へのコンサルテーションなど心理臨床活動を行ってきた。そこでは、児童生徒理解や学級経営改善の要請に、具体的かつ個別に応えることが求められてきた。その際、研究代表者は各教師の児童生徒の推測理解パターンに関する情報提供やそれを手がかりにしたコンサルテーションを行い、効果を上げてきた。本研究は、このような心理臨床実践にもとづく教育現場の要請が着想の発端ともなった。

また、社会心理学の研究領域において、「暗黙の人格観 (Implicit Personality Theory)」の一連の研究が進められてきた。そこでは、一般的傾向についての多次元的研究 (Rosenberg et al., 1968; 林, 1978 など) と共に、個別的特徴を忠実にとらえようとする研究 (田名場, 2002 など) も行われてきた。暗黙の人格観検査はこうした成果をもとに開発されたもので、本研究では、この暗黙の人格観検査研究の蓄積をもとに新たに教師専用の推測理解パターン査定方法を開発する試みでもあった。

こうした意味で、本研究は、心理臨床および社会心理学の研究成果を教育場面の要請にもとづき応用・実践するものでもあり、学際的な特色をもつものである。本研究による期待される臨床効果として、教師の新たな児童生徒観の獲得、それによる児童生徒対応の改善、さらには教師と児童生徒間関係の改善、適切な学級経営の促進をあげることができる。

2. 研究の目的

本研究は、小中等学校の教師の適切な児童生徒理解促進を第一の目的とし、それを基盤として学級経営や生徒指導の改善をも支援するプログラムを開発することを目指すものである。

本研究では、第一に教師個人個人の児童生徒理解や推測のパターンをできる限り忠実に抽出する査定方法を開発する (目的A)。それによって、推測理解パターンの自覚化を促す資料を教師に提供する。第二には、教師が一般に用いている推測理解パターンを小中別・経験差別に抽出し、パターンの個人差をより明確にする基準を作成する (目的B)。第三に、教師の利用便宜に配慮して、また大人数の同時利用を可能にするため、査定結果を適切にフィードバックするオンライン化プログラムを、当研究グループが開発した暗黙の人格観検査をベースにして開発する (目的C)。第四に、検査者が教師とともに査定結果を検討していく過程を含めた推測理解パターン自覚化を支援する効果的なコンサルテーション・プログラムを開発する (目的D)。

学校教師の場合、児童生徒理解について相当程度の研修訓練を積むことから、比較的一

様で安定した推測理解パターンがあるとも考えられなくもない。しかし、これまでの研究においては反対の結果が強調されてきた (近藤, 1995; 伊藤ら 2004 など)。すなわち、教師の推測理解パターンの個人差やそれに伴う児童生徒への対応の違いであった。また、推測理解パターンは、自覚化され難い点にも特徴があった。教師は、教師個人個人に特徴的な児童生徒理解をもとに不適切な対応を無自覚に繰り返しながら、努力が空回りすることで自信を失い、教育指導への意欲までも低下させていくことさえ懸念された。このような問題を解消するためには、スクールカウンセラーによる丁寧な面接、コンサルテーションが有効である。しかし、それには、長時間を要し、カウンセラーと教師の労力も大きい。本研究は、教師一人ひとりに対応した児童生徒推測理解パターンの新たな査定方法を開発することを目指しており、短時間で核心に迫る資料を提供することを前提にしている。

さらに、本研究は、新たな査定方法を開発することだけに力点を置くものではない。事例を通し、児童生徒に役立つ情報を教師と共に特定していくことも目的としている。また、教師自身の推測理解パターンの自覚化を促進する面接方法の開発も重視する。査定方法開発と同時に臨床心理学的実践を行い、臨床効果に基づいてさらに査定やコンサルテーションの方法を改善する。

また、本研究の査定方法は、従来の心理検査では見られない対象者が検査を作成していくという斬新な手法をとる。普段使っている児童生徒の性格をあらわす言葉を提出してもらうことで、教師個人個人に即した推測理解パターンの抽出が可能となる。一方、個々の教師のデータをサーバに蓄積することで、教師の属性 (経験年数など) による推測理解パターンの特徴を明らかにするとともに、個人差を明確化する基準を適切に修正していくことが可能となる。また、教師自身が主体的に結果解釈を行うという本査定方法の特徴は、推測理解パターンの自覚や新たな推測理解パターンの獲得、ひいては児童生徒対応の改善の機会を提供するという臨床効果につながる。学級崩壊やいじめなどの教育現場の困難な課題に伴い、教師の資質能力の向上が重要視されている今、本研究は個々の教師の児童生徒理解を促進し、対応を適切化させる契機となることを目指す。

3. 研究の方法

次の4点の研究目的にしたがって研究方法を示す。

目的A. 推測パターンを忠実に抽出する査定方法を開発すること：本研究の査定方法は、我々研究グループが開発した暗黙の人格観検査 (細江ら, 2005) の考え方をベースにす

る。これは、従来の心理検査では見られなかった対象者である教師が検査を作成していくという独創的な手法による。実施手続きは、教師が日常的に使用している児童生徒の性格を表す言葉を自由記述により提出するところから開始する。さらに、個人差を浮き彫りにする基準（目的B参照）となる形容詞を加えた性格特性語で、児童生徒について評定を行う。分析は、自由記述により提出された性格特性語を変数、被評定者である児童生徒をサンプルとして因子分析を行い、さらに抽出因子について基準との相関を算出する。この手法により、教師個々人の推測理解パターンに即した構造の適切な抽出が可能となる。

目的B. 推測パターンの個人差を明らかにする基準を明確にすること：これまで小学校教師の一般的な推測理解パターンの検討（田名場ら、2003 など）を行ってきた。本研究では、再度小学校教師の一般的推測理解パターンについて妥当性を検討すると共に、新たに中高教師及び教職経験についても、同手続きによる検討を行う。それによって教師属性に対応した性格特性語を特定し、適切な個人差識別基準となる尺度を作成する。

目的C. 査定結果を適切にフィードバックするオンライン化プログラムを開発すること：対象者である教師にとって「検査後ただちに結果を知る」「自ら検討する」「コンサルテーションを得る」が肝要である。そのため、回答後フィードバックまでの所要時間を短縮することが肝心である。本研究では、オンライン化プログラムによる端末利用によって解析から査定結果呈示まで可能な限りの所要時間短縮を図る。加えて、わかりやすい査定結果提示方法を開発する。

目的D. 効果的なコンサルテーション・プログラムを開発すること：教師と共に査定結果を検討していく過程こそ、教師自らの推測理解パターンの自覚、児童生徒の新しい側面の発見、対応のヒントなどの内省を促す好機となる。特に推測理解パターンを基にした因子次元上に、因子得点による被評定児童生徒一人ひとりをプロットした布置図を提供することは、児童生徒間あるいは児童生徒-教師間の関係を教師自身が考えるよい材料になる。面接過程を録音し内容分析を施すことにより、査定結果解釈のポイントを明らかにし、内省を導くのに有効なコンサルテーション・プログラムを開発する。

4. 研究成果

本研究では、まず教師の推測理解パターンの一般的特徴と個人差の検討（目的Aと目的B）に着手した。児童生徒の推測理解パターンの一般的特徴を明らかにする目的で、小中学校の教師を中心に、児童生徒の性格特徴についての自由記述による資料を収集した。さ

らに、上記対象者中 15 名の教師に、暗黙の人格観検査をインターネット経由で実施し、推測理解パターンの一般的特徴ならびに個人差の検討を行った。その結果、一般の人々の推測理解パターンと符合するものと、教師に特徴的な推測理解パターンおよび個人に特徴的な推測理解パターンと考えられるものがほぼ同数認められ、教師用の個人差識別基準を新たに作成する必要性が示唆された。また、特徴的な推測理解パターンを示す教師についての個別的検討により、教師に既に自覚されている推測理解パターンを手がかりにした推測理解パターン全体の自覚化の可能性が示唆された。

さらに、簡略版査定方法の着想も含め、教師の推測理解パターンの個人差を抽出する査定方法のいくつかの可能性について検討し、提案を行った（目的A）。こうした結果も踏まえ、オンライン化プログラム開発についての構想を練り直し、ソフトウェア開発会社の協力のもとに検査結果分析に必要なサーバを準備し、プログラムを移植した（目的C）。

最後に、推測理解パターンの自覚化を支援するコンサルテーション・プログラム開発にあたっては、推測理解パターンの自覚化と自覚化が対象者にもたらす効果の二点を柱に、コンサルテーションに際しての面説ガイド項目を作成した。このガイド項目をもとに中学校教師の事例を検討した結果、教師の推測理解パターンは教師個々人の教育上の問題関心に関連していること、新たな生徒の理解を促す観点の取得には被評定生徒布置図の原点付近に着目することが手がかりになることなどが明らかとなった（目的D）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計8件）

- ① 田名場忍・田名場美雪、ある中学校教師の暗黙の人格観検査に関するブラインド分析、日本応用心理学会第78回大会、2011年9月11日、信州大学（松本市）
- ② 田名場美雪・田名場忍、ある中学校教師の暗黙の人格観検査に関するコンサルテーションの試み、日本応用心理学会第78回大会、2011年9月11日、信州大学（松本市）
- ③ 田名場美雪・田名場忍、教師の暗黙の人格観自覚化を支援するコンサルテーションの検討、北海道心理学会・東北心理学会第11回合同大会、2011年8月21日、北翔大学北方圏学術情報センターポルト（札幌市）
- ④ 田名場忍・田名場美雪、教師の暗黙の人

格観検査における個別性比較基準に関する予備的検討，日本心理学会第74回大会，2010年9月20日，大阪大学（大阪市）

⑤ 田名場美雪・田名場忍，教師の暗黙の人格観検査における個別性の検討に向けて，日本心理学会第74回大会，2010年9月20日，大阪大学（大阪市）

⑥ 田名場忍・田名場美雪，教師の暗黙の人格観研究の方向性：暗黙の人格観の個別性を中心に，北東北・北海道フィールドワーク社会心理学研究会第1回合同大会，2010年8月28日，ホテル・サンピラー（名寄市）

⑦ 田名場忍・田名場美雪，教師の適切な児童生徒理解を促すコンサルテーションの開発にあたって，北東北フィールドワーク社会心理学研究会第2回大会，2009年7月31日，八戸第二ワシントンホテル（八戸市）

⑧ 伊藤忠之・田名場忍・田名場美雪，教師の児童認知に関する研究（12），東北心理学会第63回大会，2009年6月20日，弘前大学（弘前市）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

特になし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田名場 忍 (TANABA SHINOBU)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号：80292259

(2) 研究分担者

田名場 美雪 (TANABA MIYUKI)

弘前大学・保健管理センター・准教授

研究者番号：90302041

(3) 連携研究者

なし